

みなさまと共に人を育てる

高校生次世代**理系人材育成プロジェクト**



福井県教育委員会

高校教育課

Tel : 0 7 7 6 - 2 0 - 0 5 6 7

Mail : koukou@pref.fukui.lg.jp



地味にすごい、福井
“JIMI NI SUGOI” FUKUI

福井県教育状況

全国トップクラスの教育県

(学力)

	小学校 6年	中学校 3年
国語	3位	3位
算数	2位	2位
理科	3位	2位

(体力)

	小学校 5年	中学校 2年
男子	1位	1位
女子	1位	2位

しかし、課題があります

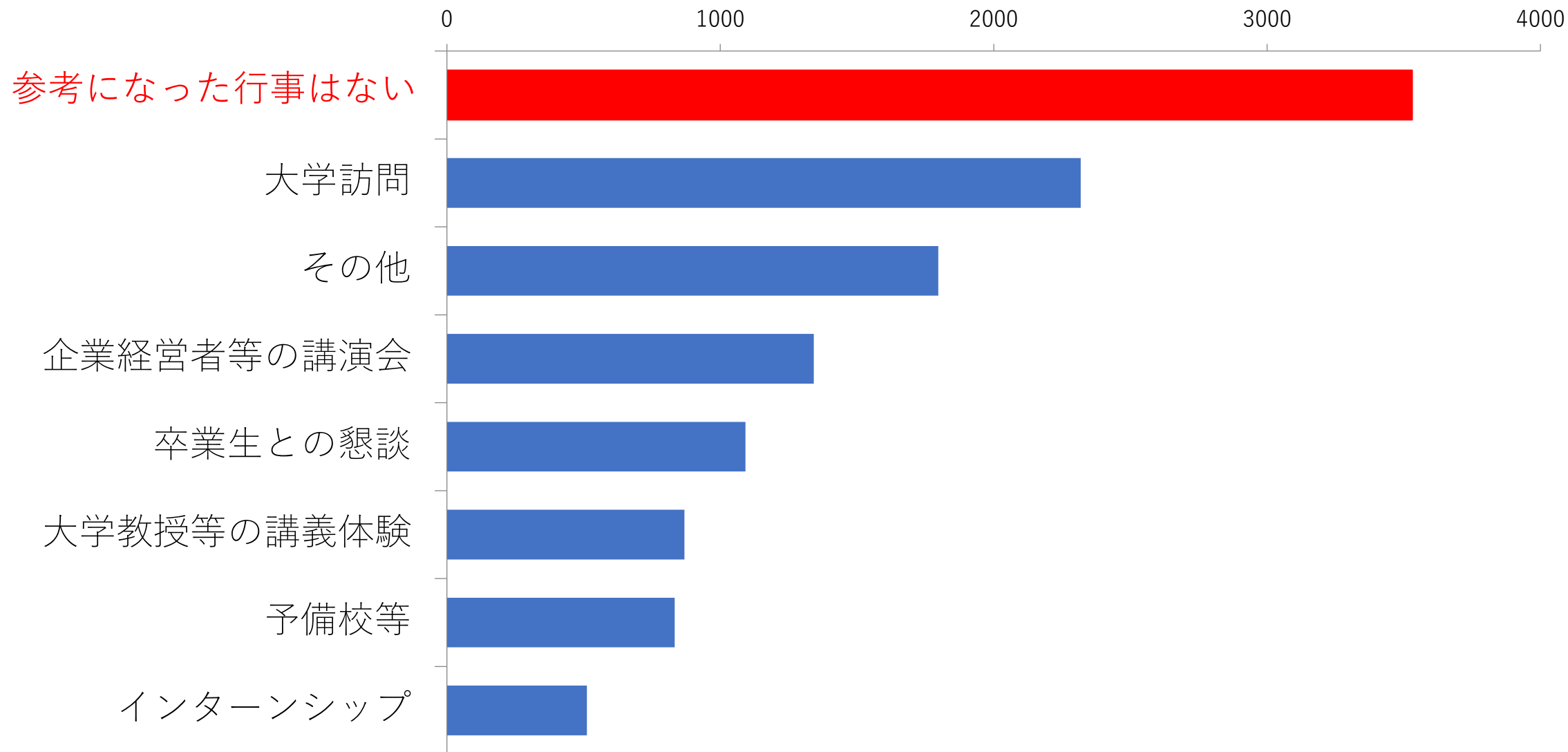
大学入学者に占める理系の女性比率は都市部に比べ低い

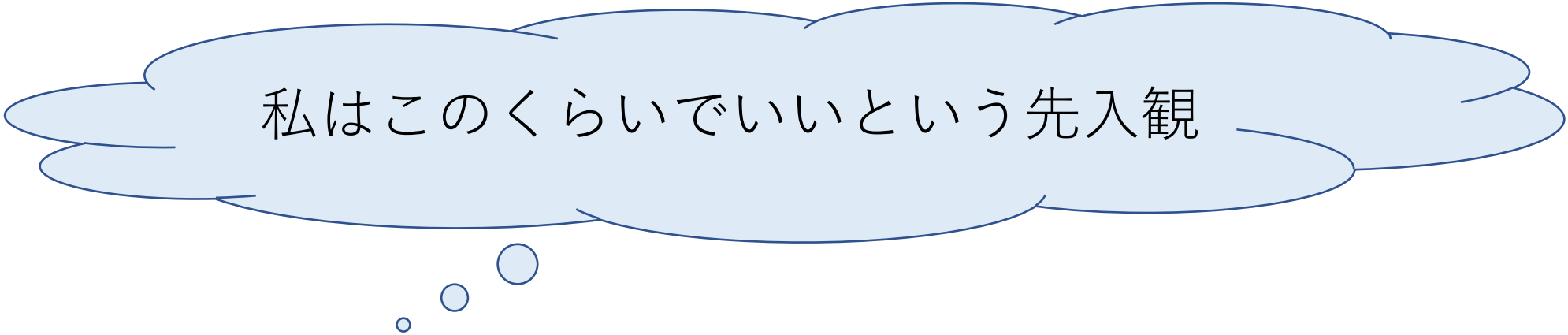
	理学 女性比率	工学 女性比率
東京	3 5 %	2 0 %
大阪	2 9 %	1 6 %
京都	3 4 %	1 5 %
福井	19%	11%

女子生徒等の理工系分野への進路選択における地域性についての調査研究（令和4年3月）
三菱UFJリサーチ＆コンサルティング

なぜ女子生徒は理系を目指さない？

【県内の高校生の進路の決めてとなったイベント一覧】





私はこのくらいでいいという先入観

環境が選択肢を奪ってきた

みさまさと共に

高校生が様々な経験と挑戦できる環境を

地方に創る

具体的な取組みとして、

汎用性・必要性が高い情報分野を入口に様々な分野に経験やチャレンジをさせる

高校の探究では文理に関係なく根拠、論理力が求められている
社会ではエビデンスが求められている

センサーデータ

GPS、交通系ICカード、RFID等で検知される位置、乗車履歴、温度、加速度等



ソーシャルメディアデータ

ソーシャルメディア（SNS）において参加者が投稿するコメント等



（高校の動き）

- ・令和4年の高1から数学の統計の範囲が拡大
- ・2025年実施の大学共通テストから「情報」が新科目として出題（5教科→6教科）

（社会の動き）

- ・高校での探究活動、ビジネス・行政などどの分野にもデータ分析に基づくエビデンスが必要

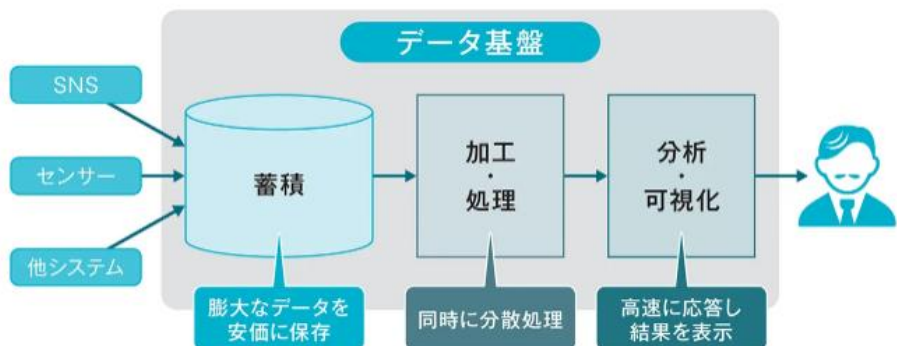


図1-19 データを蓄積しておくデータ基盤



1 研究者から直接話を聞く、 助言を受ける仕組みづくり

- ・ 学校の枠を超えたオンライン学習
- ・ 夏季休業等を活用した対面学習



2 生徒のアプリ開発、研究活動 を応援する仕組みづくり

- ・ 高校生に研究資金を支援



1 研究者から直接話を聞く、助言を受ける仕組みづくり



県教育委員会が高校生を集め、その生徒が挑戦できる環境を作ります。

[対象] SSH校と理数科の高校の
高校1年の女子生徒 30人

SSH：スーパーサイエンスハイスクール

[内容] オンライン学習と対面学習

・学校の枠を超えたオンライン講座を開催



○放課後等の時間を活用し高校生がオンラインで参加する。

(企業版ふるさと納税)

- ・まずは探究に役立つ情報分野（データ処理等）を切り口に年間プログラムの構築
- ・プログラムの一環で情報分野以外にも専門家をゲストとして招へい 関心を広げる



データサイエンス

環境・地震

プラスチック

・ 学校の枠を超えた対面学習を開催

○夏休みなど長期休業を活用し高校生が、
ゼミ合宿プログラムに参加する。

(企業版ふるさと納税)

- ・ 福井大学を含め県内外の大学教授、企業技術者などが助言
- ・ 県内の教育施設で4日程度実施
- ・ 具体的なプログラムを検討中

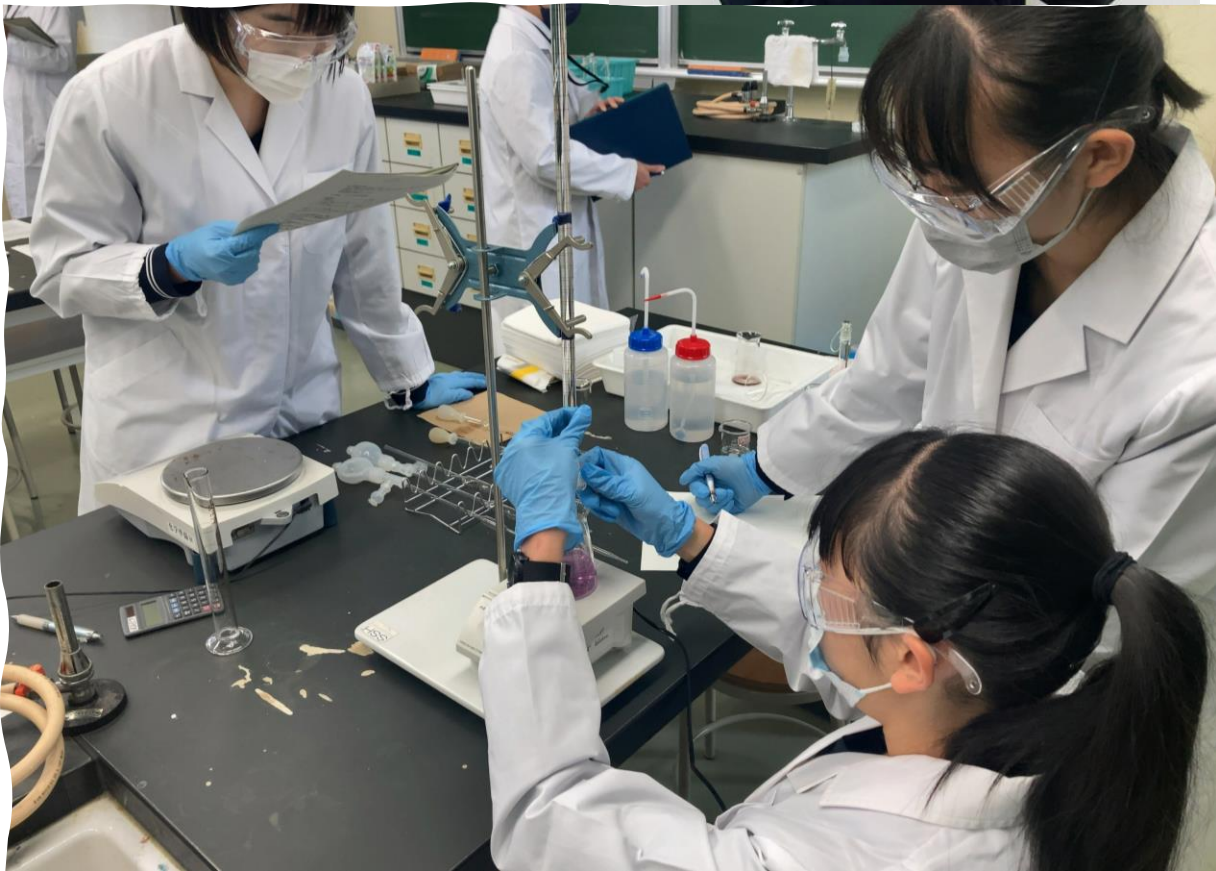




2 生徒一人ひとりのアプリ開発、研究活動を応援

(企業版ふるさと納税)

- ・ 生徒にアプリ開発・研究費を支援
- ・ 研究機関に出向いての実験支援
- ・ 技術者等からの個別の助言



夢を持ち、夢を実現する人を増やしたい



夢は月へ、火星へ
頑張れば**誰か**が見てくれている

惑星火山研究者 / 「はやぶさ2」のチームの一員
新潟大学 助教 博士（理学）
元 JAXA宇宙科学研究所研究開発員

野口里奈さん（坂井市出身）

野口さんは現地本部に詰め、カプセルの落下地点を探す方向探索班の一員として活動した。広大なエリアに展開してアンテナを立てた探索局の一つを受け持ち、落下するカプセルの方位を聞き取りデータを入力する任務を担った。

「誰か」に我々と共になってください

1 ビジョンを共有し共に子どもたちを応援してください

- ・ 高校生に対し研究講演（企業推薦の人も可能）
- ・ 高校生の視察受入れ

2 理数関連大会（県主催）に応援企業として掲載されます

（希望される企業のみ。講演テーマ等は要相談）

成果（他の生徒への化学反応）

人口が小さい県だからこそプロジェクトの実現が可能です
（県内のSSH校や他の理数科の女子1年生総数 **6 4 1 人**）

まず、ターゲットを絞り **1 6 %** の生徒のマインドを変えます
（今回の事業に様々な形で参画する生徒数目標 **1 0 0 人**）

そして、全ての高校生が夢を持ち、夢を目指す生徒を育てます

1 6 %とは【キャズム理論】

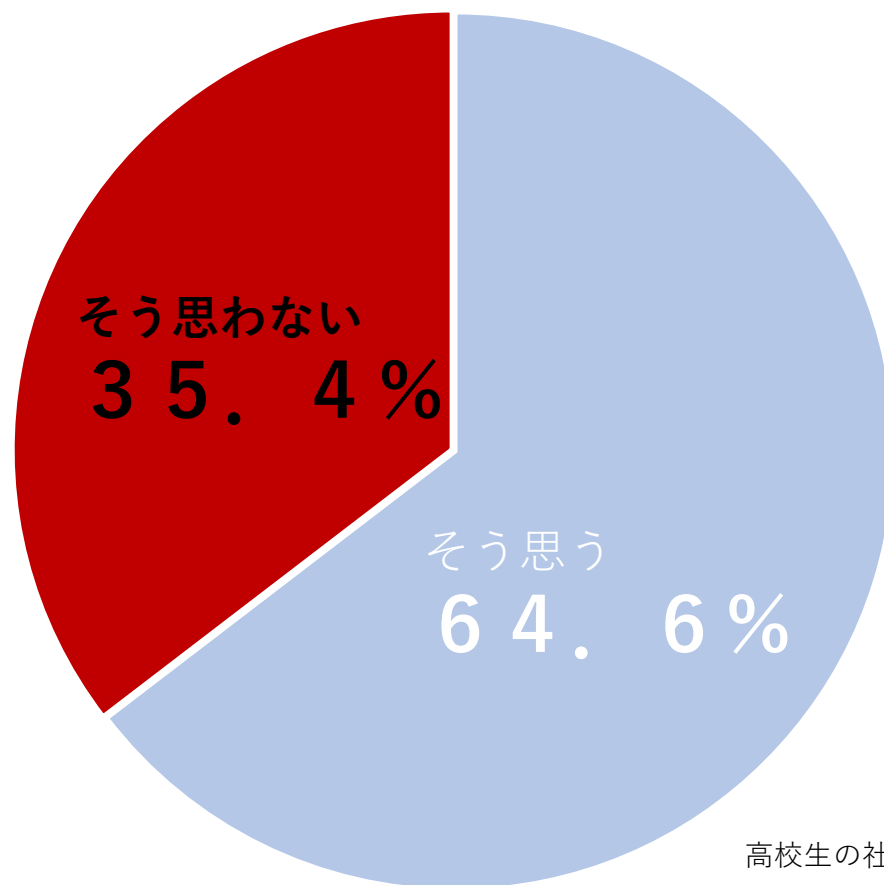
商品・サービスが市場に普及するために超える必要のある溝

（普及率 **1 6 %**）について説いた理論

普及率が **1 6 %** を超えると全体に広がっていくと言われている

全国高校生アンケート

自分が参加しても社会は変わらない



理数分野にも果敢に挑戦
社会に変える生徒を育成

みなさまと共に
「ふくい」の子どもたちの挑戦を応援し

地域の未来を創ります

地域にいても、県内外の大学や企業、研究機関と連携して研究を行ったり、
教授など研究者から直接指導を受けたりして、
高校生に最先端の知見に触れるハイレベルな探究活動を経験させたい。

化学や環境、デジタルなど様々な分野に
挑戦し進路選択を広げる地域の 人材育成プロジェクトに、
皆様の応援をお待ちしております。

目標金額 総額 300 万円/年